

国立国会図書館



地域の歴史を知るための

デジタルアーカイブ

公共図書館の取組みから

図書館・文書館における資料防災

2011.6
No. 603

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

| | | | |
|--------|---|-----------|-----------------------------------|
| 開館時間 | 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 | 即日複写受付 | 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00 |
| | <small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small> | 後日複写受付 | 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30 |
| 資料請求時間 | 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 | オンライン複写受付 | 月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30 |
| | <small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small> | | |

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

| | | | |
|---------|-------------------|-----------|-------------------|
| 開館時間 | 月～土曜日 10:00～18:00 | 即日複写受付 | 月～土曜日 10:00～17:00 |
| 資料請求時間 | 月～土曜日 10:00～17:15 | 後日複写受付 | 月～土曜日 10:00～17:45 |
| セルフ複写受付 | 月～土曜日 10:00～17:30 | オンライン複写受付 | 月～土曜日 10:00～17:00 |

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

| | | | |
|---------------|------------------|--|--------------------------|
| 開館時間 | 火～日曜日 9:30～17:00 | <small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small> | |
| 第一・第二資料室の利用時間 | 閲覧時間 | 火～土曜日 9:30～17:00 | 資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30 |
| 複写サービス時間 | 即日複写受付 | 火～日曜日 10:00～16:00 | 後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30 |
| | 複写製品引渡し | 火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30 | |

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 相模国座間宗仲寺由来記 徳川家康ゆかりの名刹の記録

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 地域の歴史を知るためのデジタルアーカイブ

公共図書館の取組みから

13 言葉のエッセイ 第6回 母音・イントネーション・アクセント

14 図書館・文書館における資料防災

20 憲政資料室の新規公開資料から

永田秀次郎・亮一関係文書、若槻礼次郎関係文書

12 館内スコープ

デジタルアーカイブへの入り口「PORTA」

26 本屋にない本

○『縫針読本』

○『ジャンルコードと分類法 同人誌図書館における分類法の検討』

28 NDL NEWS

○我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定

29 お知らせ

○「歴史的音源」が利用できるようになりました

○近代デジタルライブラリーがさらに充実しました

○国立国会図書館データベースフォーラム

○国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび2011」

○帝国議会会議録検索システムが使いやすくなりました

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

相模国座間宗仲寺由来記

徳川家康ゆかりの名刹の記録

川本 勉

神奈川県座間市にある来迎山峯月院宗仲寺は、徳川家康の重臣、関東惣奉行内藤修理亮清成しゅりのすけが開いた、鎌倉郡岩瀬村大長寺（浄土宗）の末寺。本尊は阿弥陀如来。慶長年中の建立。権現様（徳川家康）の御茶屋で、御殿寺と称し、高札や下馬札が建てられた。開住の暁誉源栄上人は権現様お取立ての御帰依僧で、高さ5寸程の権現様の木像を彫り、それを寺に祀った。後に三河国大樹寺へ転住。権現様は鷹狩りや武蔵府中の御殿へ御成りの節、宗仲寺で休憩を取ると、お礼に巻物、呉服、茶道具を寄附し、来迎山という山号を贈り、境内に自ら銀杏の木や枝垂桜を植えた。権現様が駿府にて逝去すると、日光山へ御尊骸が運ばれたが、その途中、供奉衆は宗仲寺の新御殿にて休憩、清成より昼弁当を振舞われた。その由緒ゆえ、寺領7石4斗、山林竹木の使用許可、諸役の免除を記した朱印状が下賜された。

『相模国座間宗仲寺由来記』は、この宗仲寺の由緒などを筆写したものの。第9代住職の光誉理阿和尚の口書、寛政10（1798）年9月に関東郡代中川飛騨守忠英ただてるが座間村を巡廻の際に提出された由緒書、略図（写真1）、絵符、公方家御位牌、清成やその父、竹田宗仲などの墓・御位牌・過去帳による御法号、御朱印（写真2）、什宝（写真3）、紋所、江戸から座間までの道程などからなる。高遠藩内藤家の家臣による筆写か。筆写年は、現住職を17代宣誉和尚（弘化2年没）と記していること、天保11（1840）年、高遠藩主内藤頼寧よりやすが宗仲寺に香炉、燭台などを寄贈した旨の記載があることなどから、天保の終わりから弘化にかけてか。理阿和尚の口書によると、和尚は宗仲寺の再興に尽力したようだ。

理阿和尚は増上寺寮主教運の弟子で、教運は内藤家の菩提寺である太宗寺の其中和尚と学友。教運と其中との関係から理阿和尚は、宗仲寺住職に推挙された。当時の宗仲寺は、2度の大火（本堂は寛永年中焼失）に遭い、内藤家からの付け届けもなくなり貧寺になっていた。歴代住職は、江戸の内藤家屋敷まで年頭には挨拶に出向いていたが、先代の唄玄和尚は病気がちでそれを怠り、関係は途絶えてしまった。屋敷への出入り再開を願い出た書付が、其中和尚より大目付の藁科忠右衛門、牛越太郎左衛門、中野武右衛門に渡り、藩主大和守頼由よりゆきへもたらされ、太宗寺を通じて出入り再開の内意を得た。延享元（1744）年10月8日、上屋敷（神田小川町）御広間にて城戸十蔵きどが応対し入院式が執り行われ（写真4右）、太宗寺に糊入紙200枚が、藩主や大目付、星野縫殿ぬいどの（家老）、市江助太夫（留守居）らに扇子入臺居が贈られた。その際、内藤家の祐筆が理阿和尚の持参した書付2通（「由緒書之事」（写真4左）、「開基由緒書之覚」）を借り受け筆写。また、幕府の寺社奉行、松平主計頭武元かづえのかみたちかに由緒書が提出された。

この『由来記』は、御屋敷入院式の様子や御朱印など他の資料にはみられない宗仲寺の記録が収録されていて、宗仲寺の埋もれた歴史を明らかにする貴重な資料といえる。什宝の記録でも、家康から拝領した松蓋の御釜などの茶道具類が、寸法も入れて細かく筆写されている。特に、宗仲寺の由緒を詳しく調べていた、高遠藩内藤家の家臣たち（三村良助、伊藤金太夫明誠など）が確認できるのは興味深い。

（かわもと つとむ 主題情報部人文課）

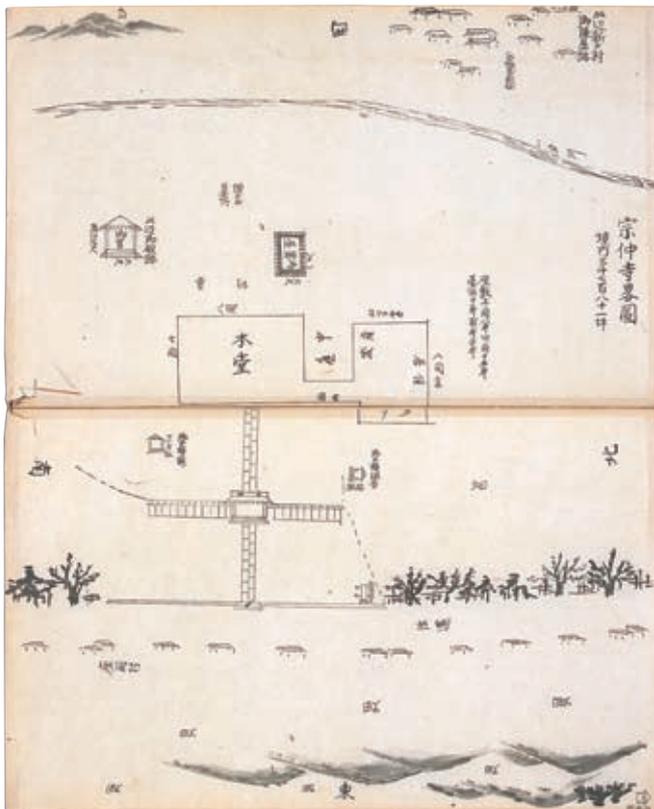


写真1

写真1 9丁裏～10丁表 「宗仲寺畧圖」 境内は3,781坪。西側の新戸村に御陣屋跡、陣屋稲荷、殿小路、東側に天神祠、座間村、本堂裏に御霊屋、家康の坐像を祀った御宮、本堂左下に家康の御手植桜と2代目和尚雲應が安置した霊験著名な阿波島社、本堂右下に同じく御手植の銀杏と鐘楼、高札が見える。

写真2 14丁裏～15丁表 「御朱印寫」 右は慶安2 (1649) 年8月24日、3代將軍家光の時の御朱印。左は貞享2 (1685) 年6月11日、5代將軍綱吉の時の御朱印。

写真3 16丁裏～17丁表 「什寶物」 東照宮(家康)の御神影(72歳の御像)は2幅あり、1幅は表装が御紋ちらし(文政10 (1827) 年修補)。1幅は下絵、形小で表装も簡便だが、御真筆、または、画をよく嗜んだ竹田宗仲廣昌(内藤清成の父)に家康が命じて描かせた旨の記載あり。

写真4 2丁裏～3丁表 延享元年10月8日の御屋敷入院式では、ようかん、挽茶、吸物などが出された。理阿和尚は10月11日、増上寺の教運寮に泊まり、翌12日未明、帰国の途に着いた。和尚が持参し、内藤家祐筆に貸し出された書付2通の内の1通、「由緒書之事」が筆写されている。

相模国座間宗仲寺由来記 雑録附 写

1冊(全29丁) 24.5cm×17.0cm

明治38 (1905) 年6月5日、浅倉屋(吉田久兵衛)から購求

「吉田氏/圖書記」の蔵書印あり

<請求記号 229-213> ※東京本館所蔵



写真2

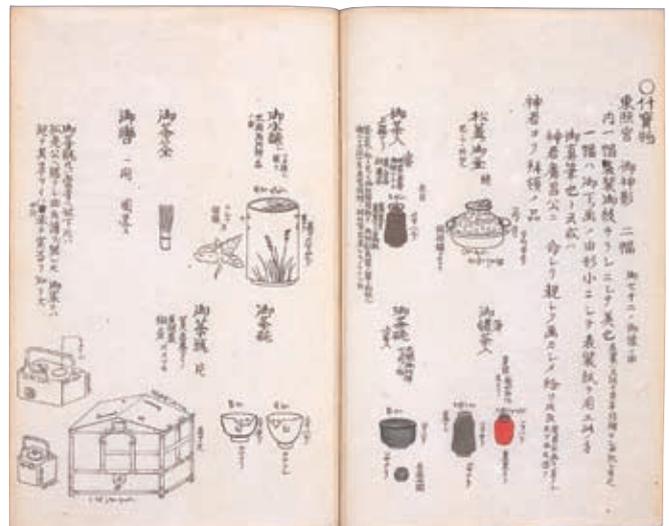


写真3

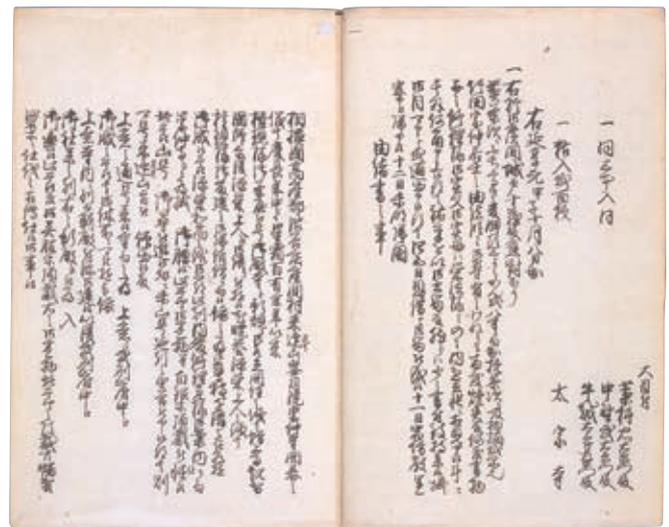


写真4

宗仲寺について知るために

- 『浄土宗寺院由緒書』写 元禄9 (1696) 年成立 (『増上寺史料集 第5～7巻』 増上寺 1979-1980 <請求記号 HM156-9>)
- 『宗仲寺由緒書』寛政2年写 (伊那市立高遠町図書館蔵 高遠町資料1-302)
- 福原高峰撰、長谷川雪堤画『相中留恩記略』写 天保10年成稿 (徳川林政史研究所蔵本の複製 有隣堂 1967 <請求記号 GC74-2>)

- 間宮庄五郎士信 [ほか] 編『新編相模国風土記稿』写 天保12年成稿 (蘆田伊人編集校訂 雄山閣 1985 <請求記号 GC74-G17>)
- 大橋俊雄著『宗仲寺史』宗仲寺 1979 <請求記号 HM156-10>
- 『座間市史 2 (近世資料編)』座間市 1991 <請求記号 GC78-E86> 『座間市史 5 (通史編 上巻)』座間市、座間市教育委員会教育部生涯学習推進課 2010 <請求記号 GC78-J82>

地域の歴史を知るための デジタルアーカイブ 公共図書館の取組みから



左 「デジタル東山道信濃国略図メイキング」上から 資料状態確認及び撮影方法の検討、皺伸ばし工程1、撮影（上田市立上田図書館デジタルライブラリー） 右 瀬下敬忠作「東山道信濃国略図」（宝暦2（1752）年 請求番号 花月文庫・郷土史附地図・39）

はじめに

小説を借りたり、調べものに活用したり、身近な存在である地域の図書館。ですが、地域の図書館の魅力はそれだけではありません。その地方の古い地図や古文書類など、郷土の歴史を語る貴重な資料が、多くの都道府県立、市区町村立等の公共図書館に所蔵されているのです。

そうであっても、「専門家でなければ見られないのでは?」「手続きがややこしいのでは?」と思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、貴重な資料を誰でも気軽に見られるよう、「デジタルアーカイブ」と呼ばれる取組みが少しずつ広がって

ます。所蔵資料をデジタル化して、広くインターネットで配信することで、これまでは図書館に足を運ばなければ見られなかった貴重な資料が、自宅のパソコンで気軽に見られるようになるのです。

国立国会図書館は、平成22年度に、デジタルアーカイブで積極的に地域の貴重な資料や情報を公開している国内の公共図書館等計23機関（10～11ページ表）を対象に調査を行い、デジタルアーカイブ構築までのプロセスと体制、日々の作業等についてまとめています。

この調査結果から見てきたユニークな取組みをご紹介します。

福神大鯛(富山売薬版画)



概要

年代: [明治20年頃]
 形態: 色刷り版画
 数量: 1枚
 大きさ: 37×26cm
 出版者: 小泉版
 請求記号: [A04-39]

拡大



解説

越中富山の薬売りとして知られている売薬の「おまけ」として配られた木版色刷り一枚物の吉祥版画である。

富山売薬版画 福神大鯛 [明治20 (1887) 年ごろ] (富山県立図書館 古絵図・貴重書ギャラリー 請求記号 A04-39)



第十二回国際オリンピック大会開催東京市決定記念電車往復乗車券

(東京都立中央図書館 都市・東京の記憶-Tokyo Archive [磯ヶ谷紫江旧蔵品貼込帳 9] 磯ヶ谷紫江 (製作) [19-] 請求記号 T/382.0/5004/9)

ラリー」では、明治時代に薬のおまけとして配られていた版画を見ることができます(上画面)。富山市立図書館の「電子図書館」では、「富山デザインパッケージ」として薬袋のデジタル画像を公開しています。

鉄道ファンにはこんなコンテンツはいかがでしょうか? 東京都立中央図書館の「都市・東京の記憶-Tokyo Archive」は、所蔵資料から東京の歴史を振り返っています。幻に終わった1940年の第12回オリンピック東京大会決定記念の乗車券も見ることができます(左写真)。

長崎県立長崎図書館の大正時代の芳名録には、

北摂アーカイブス / 写真/まちなみ/春日町から島熊山方向をのぞむいま・むかし比較

ログインしていません | ログイン | RSS

ホーム

- ようこそ
- 分類
 - まちなみ
 - たてもの
 - 交通
 - 自然
 - 社寺・祭り
- 表紙アーカイブス
- イラストマップ
- ご案内
 - 写真の探し方
 - 利用規約
 - 二次利用について
 - お問い合わせ

豊中市立図書館 TOYONAKA CITY LIBRARY 動く図書館60周年 特設サイト

春日町から島熊山方向をのぞむ いま・むかし比較

昭和44年(1969年)  拡大写真とデータはこちら

平成22年(2010年)  拡大写真とデータはこちら

春日町から島熊山にいたる緑が丘エリアの実現です(C102)

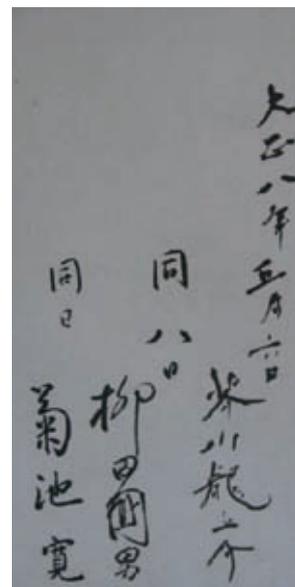
写真は、東に向けて撮影したものです。今の写真では道を真っ直ぐに行くと左側に野畑小学校があります。野畑小学校は1974年(昭和49年)の開校で、左の写真ではまだ無いと思われます。昭和44年には遠方(うかがえる島熊山周辺)は宅地化が進み、現在では当時の風景は残ることはできません。(C107)

この写真に関するご意見・情報・お問い合わせ等がございましたら、こちらをご覧ください。

春日町から島熊山方向をのぞむ (豊中・箕面地域情報アーカイブ化事業実行委員会「北摂アーカイブス」から)
 左：豊中市広報広聴課提供 右：豊中・箕面地域情報アーカイブ化事業実行委員会・地域フォトエディター提供

日本の近代文学史上興味深い記録が残されています。大正8(1919)年5月の日付で、芥川龍之介、柳田國男、菊池寛の署名が並んでいます。芥川と菊池が初めて柳田に出会った場所が同館だったとのこと(右写真)。

地域の歴史を伝える資料の一つに写真があります。豊中市立岡町図書館が箕面市立図書館と連携して運営している「北摂アーカイブス」では、昭和40年代前後の地域の写真を公開しています。写真によっては、市民ボランティア「地域フォトエディター」が同じアングルで撮影した現代の写真も見ることができます(上画面)。



来館者芳名録(大正8年5月 長崎県立長崎図書館「郷土ライブラリー」から)

写真に限らず、伝統行事の動画や民話朗読の音源を扱うデジタルアーカイブもあります。長野県「信州デジくら」では、伝統行事等を動画で見ることができます。

後世に残したい町の記憶をデジタルアーカイブで提供している例もあります。愛荘町立愛知川図書館の「町のこしカードWeb版」では、「ホテル」「メダカ」「かやぶき屋根」等のキーワードから、後世に残したい町の風景の情報を見ることができます。

このように、従来の図書館のイメージを超えた、さまざまなコンテンツがインターネット上で公開されています。これまでご紹介した資料は、そのわずか一部に過ぎません。郷土の魅力を伝えるバラエティ豊かなコンテンツをぜひ探してみてください。

2 運営の工夫

——公共図書館をとりまく厳しい現状の中で

このように積極的に資料を配信している公共図書館がある一方、全体としては、デジタルアーカイブ事業に着手していない図書館が大半であるというのが実情です。

平成21年度に国立国会図書館が実施した調査¹によれば、デジタルアーカイブを構築している公共図書館は、わずか10.7%でした（図1）。都道府県立、政令指定都市立の図書館では半数以上のほりますが、それ以外の市町村の図書館では、デ

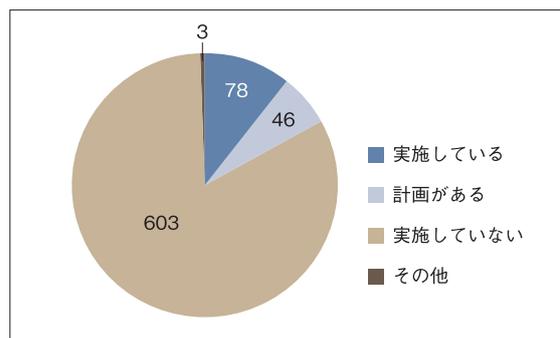


図1 公共図書館におけるデジタルアーカイブの実施・運営状況（全体）

ジタルアーカイブの構築はごく一部に限られています（次頁図2）。

デジタルアーカイブを構築していない図書館にその理由を聞いたところ、予算がない（84.0%）、人員がない（74.7%）、ノウハウがない（70.9%）という回答が圧倒的多数を占めました。

予算や人員という現実的な問題により、なかなかデジタルアーカイブの普及が進まない厳しい現状がうかがえます。

今回行った調査では、デジタルアーカイブの構築に積極的な機関でも、人員、予算等の課題を抱えていることがわかりました。機関により状況は異なりますが、次のような運営の工夫が見受けられます。

(1) 地域の人材を活用する

今回の調査では、前述の「北摂アーカイブス」のように、市民ボランティア等地域の人材を活用している例が多く見られました。

特に多いのは、住民からコンテンツの提供を受

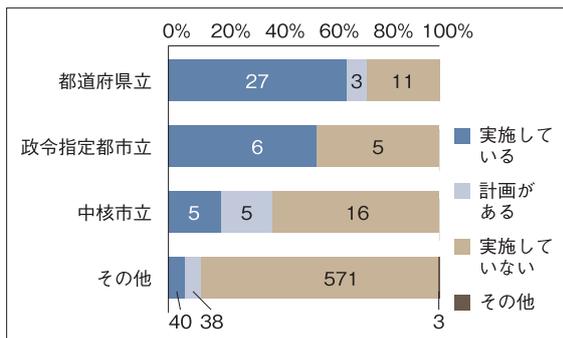


図2 公共図書館におけるデジタルアーカイブの実施・運営状況（設置母体別）

けている例です。岡山県立図書館では、デジタルアーカイブ「デジタル岡山大百科」を「郷土情報ネットワークの窓口」と位置づけ、県内の個人・団体にコンテンツの提供を呼びかけています。また、秋田県立図書館の「デジタルライブラリー」では、地元の語り部による民話の朗読を聞くことができます。

(2) 他の機関との連携

今回調査を行った機関の大半が、デジタルアーカイブの運営にあたり、何らかの形で他の機関と連携していました。

特に、大学との連携の事例では、システム構築、コンテンツ作成等に大学のノウハウを活用している例が多く見られます。函館市立中央図書館では、地元大学と研究開発委託契約を結び、公開用システムの構築を依頼しています。

その他の連携先としては、同じ自治体の図書館、博物館・美術館、文書館、自治体の情報政策の担当部署等があります。

また、外部機関のデータベースと連携し、自館以外のコンテンツを検索・閲覧できるようにしている例も多数あります。連携先のデータベースの代表的な例が、国立国会図書館の「PORTA」（国立国会図書館デジタルアーカイブポータル本誌12ページ「館内スコープ」参照）²で、今回の調査対象機関中10機関を含めた国内63機関、183のデジタルアーカイブをまとめて検索することができます（平成23年4月末現在）。

(3) 費用面での工夫

前述のとおり、予算の不足はデジタルアーカイブ推進にとって大きな課題です。今回の調査においても、財源の確保に関する工夫、運営費用を抑える工夫を行っている事例が見られました。

財源に関する工夫としては、関連府省の事業や助成金への公募を利用する例が見られました。また、大阪府では、「おおさかアーカイブス」のコンテンツを商業目的で利用する場合に利用料を徴収し、その一部を新しいコンテンツ作成のために活用しています。

運営費用を下げる工夫としては、写真共有サイト「Flickr」や動画共有サイト「YouTube」等のサービスを利用して、多額の費用をかけずにデジタルアーカイブを公開する取り組みがあります。山中湖情

¹ 平成21年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」（http://current.ndl.go.jp/FY2009_research）

² <http://porta.ndl.go.jp/>

報創造館では、「Flickr」を活用して、山中湖村の古い写真等を公開しています。なお海外でも、米国議会図書館やスミソニアン博物館等世界の著名な文化機関が「Flickr」で写真を公開、あわせて利用者からその写真に関連する情報を募るプロジェクト「The Commons」³が広がりを見せています。

果は国立国会図書館ホームページに掲載しています⁴。ご協力いただいた機関に感謝申し上げますとともに、多くの方々にご活用いただけることを願っています。

(関西館電子図書館課)

おわりに

今回の調査では、このほかにも、これからデジタルアーカイブの構築を検討する図書館にとって参考となる情報を得ることができました。調査結

³ <http://www.flickr.com/commons/>

⁴ 国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 電子図書館事業 > 連携協力 > デジタル情報資源ラウンドテーブル > 公共図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議 (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/kokyo.html>)

調査対象機関一覧

※ URLは平成23年6月1日現在

| 機関名 | デジタルアーカイブの名称 | デジタルアーカイブの概要 |
|-----------|--|---|
| 北海道立図書館 | 北海道立図書館北方資料デジタル・ライブラリー (http://www3.library.pref.hokkaido.jp/digitallibrary/) | 北海道と旧樺太・千島列島など北方地域に関する、主に古地図、古文書等 |
| 岩手県立図書館 | イーハトーブ岩手電子図書館 (http://www.library.pref.iwate.jp/ihatov/index/sakuin.html) | 古文書、古絵図、石川啄木・宮澤賢治関係資料のうち、特に歴史的価値の高いもの |
| 秋田県立図書館 | 秋田県立図書館デジタルライブラリー (http://www.apl.pref.akita.jp/) | 古文書、絵図、郷土雑誌画像データベース、民話音声、祭事動画等 |
| 東京都立中央図書館 | 貴重資料画像データベース (http://metro.tokyo.opac.jp/tml/tpic/) | 浮世絵、江戸城造営関係資料(重要文化財)、和漢書(草双紙、武鑑) |
| | 特別コレクション (http://www.library.metro.tokyo.jp/17/) | 特別文庫室所蔵の貴重資料、都立多摩図書館が所蔵する児童資料 |
| | 都市・東京の記憶 - Tokyo Archive (http://www.library.metro.tokyo.jp/tokyo/) | 東京の歴史・文化についての資料 |
| 富山県立図書館 | 富山県立図書館 古絵図・貴重書ギャラリー (http://www.lib.pref.toyama.jp/gallery/collection/) | 貴重資料、富山県の各地域にわたる絵図等 |
| 福井県立図書館 | 福井県立図書館貴重資料データベース (http://www.library.pref.fukui.jp/webmuseum/) | 越前福井藩主松平家、若狭小浜藩主酒井家に伝わる藩政資料および館蔵の近代地図等 |
| 静岡県立中央図書館 | デジタル・ライブラリー (http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/library/index.html) | 貴重書(葵文庫・久能文庫)、特別取扱資料、浮世絵 |
| 京都府立総合資料館 | 京都北山アーカイブズ (http://www.pref.kyoto.jp/archives/) | 黒川翠山写真・琵琶湖疏水工事写真帖等の古写真、御所・御陵絵図、社寺関係資料等、京都にゆかりの絵図等 |

| 機関名 | デジタルアーカイブの名称 | デジタルアーカイブの概要 |
|----------------------|--|---|
| 奈良県立図書館情報館 | 郷土資料論文抜刷データベース（機関内限定） | 郷土関係学術論文の抜刷のデータベース |
| | 絵図展示ギャラリー (http://www.library.pref.nara.jp/gallery/ezu/) | 古絵図のデータベース |
| | ふるさとデジタル化書籍一覧 (http://opacsvr02.library.pref.nara.jp/mylmedio/dirsearch/dirsearch.do?dirid=furusato) | 貴重書籍のデータベース |
| | 所蔵古文書一覧 (http://opacsvr02.library.pref.nara.jp/mylmedio/dirsearch/dirsearch.do?dirid=komonjo) | 古文書のデータベース |
| | 奈良県地域史料目録 (http://www2.library.pref.nara.jp/nlmc/) | 奈良県地域の史料の紹介、研究、翻刻、影印等の文献データベース |
| | デジタル化公文書一覧 (http://www.library.pref.nara.jp/furusato/archives.html) | 奈良県行政文書のデータベース |
| 岡山県立図書館 | 電子図書館システム デジタル岡山大百科 (郷土情報ネットワーク) (http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/) | 絵図、古文書、古地図等のほか、県内の様々な機関や県民から提供されたコンテンツ |
| 福岡県立図書館 | デジタルライブラリ (http://www.lib.pref.fukuoka.jp/degital) | 貴重資料・郷土資料 |
| 長崎県立長崎図書館 | 郷土ライブラリー (http://www.lib.pref.nagasaki.jp/) | 長崎ゆかりの文学（作家のプロフィール等）、明治35年以降の郷土新聞、近現代資料（雲仙関係、島原鉄道建設関係）、一部の来館者芳名録、行政資料 |
| 市町村立図書館 | | |
| 函館市中央図書館 | デジタル資料館 (http://www.lib-hkd.jp/digital/) | 古地図・古写真・絵葉書・ポスター等の画像、市史等のテキスト |
| 長岡市立中央図書館 | ながおかネット・ミュージアム (http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/museum/) | 貴重資料（上杉謙信・景勝・直江兼続・河井継之助の書等）の画像・基本情報・解説等 |
| 富山市立図書館 | 山田孝雄文庫電子化資料 (http://www.library.toyama.toyama.jp/yamadadl/) | 富山市出身の国語学者・山田孝雄氏の自筆原稿、同氏旧蔵の江戸期以前の和古書 |
| | 電子図書館 (http://denshi.library.toyama.toyama.jp/) | 富山市古地図、葉袋のパッケージデザイン等 |
| 上田市立上田図書館 | 上田市立上田図書館デジタルライブラリー (http://www.echol.gr.jp/digilib/) | 代表的コレクションである花月文庫の目録、同文庫中の東山道信濃国略図、御当代記等 |
| 豊中市立岡町図書館 | 北摂アーカイブス (http://wiki.service-lab.jp/lib_toyonaka/) | 地域住民等が所有する北摂地域の写真等（箕面市立図書館等と連携して実施） |
| 小布施町立図書館 まちとしょテラソ | 小布施人百選（開発中） | 人づくりや町づくりに役に立てるという観点に基づく、地域の人物誌 |
| | 想－IMAGINE まちとしょテラソ (平成23年6月公開予定) (http://imagine.machitoshoterrasow.com/) | NPO法人連想出版の「想－IMAGINE Book Search」と小布施町の情報（図書館の資料、古写真、古地図など）を連携させた検索サービス |
| | 小布施正倉 (http://obusesosho.info) | MLA連携による、小布施町の文化機関の所蔵資料のデジタルアーカイブ |
| | 小布施ちずぶらり | 小布施町の天明年間の地図を利用した情報マップ（iPhone、iPod touch および iPad用アプリ） |
| 愛荘町立愛知川図書館 | 町のこしカード Web版 (http://www.town.aisho.shiga.jp/machinokoshi/) | 住民が町内でみつけた残したい風景、おもしろいもの等 |
| | えちがわ歴史写真館 (http://www.town.aisho.shiga.jp/shashin/) | 昭和40年代の地域の写真 |
| 山中湖情報創造館 | 山中湖古写真所在目録事業 (http://www.flickr.com/photos/lib-yamanakako/) | 山中湖の歴史や文化等を記録する写真（地域住民の提供による） |
| 地方自治体 | | |
| 石川県商工労働部 産業政策課 | 石川新情報書府 (http://shofu.pref.ishikawa.jp/) | 石川県の文化資産（伝統工芸、民俗等）の画像、動画による記録 |
| 長野県企画部 | 長野県デジタルアーカイブ推進事業「信州デジくら」 (http://digikura.pref.nagano.lg.jp/) | 県立歴史館、県立長野図書館、県信濃美術館等県内の文化機関の連携と県民の協力による、地域に関する幅広いデータ |
| 大阪府商工労働部 経営支援課 | おおさかアーカイブス (http://www.osaka-archives.com/) | 古典籍、絵図、貨幣、美術品等の文化資産 |

デジタルアーカイブへの入り口「PORTA」

4～11ページの記事「地域の歴史を知るためのデジタルアーカイブ」はご覧になりましたか？ この記事では図書館の事例を紹介していますが、ほかにも博物館、美術館、公文書館、大学、研究機関に民間団体など様々な機関がデジタルアーカイブを公開しています。

ラテン語で「門」「入り口」を意味する「PORTA（国立国会図書館デジタルアーカイブポータル）」は、上記のような機関との連携により、国内のデジタルアーカイブをまとめて検索できるサービスです。

担当である自分の仕事は、連携する機関との調整です。連携については、相手先からご依頼を受けることもあります。どちらかといえばこちらからお願いすることの方が多いです。平成23年4月末現在で検索できる外部のデジタルアーカイブは168種類、最近では公共図書館を中心に連携が広がっています。

連携先のデジタルアーカイブが検索できるようにするためには、メタデータ（目録情報）を国立国会図書館のデータベースに収録する必要があります。メタデータの形式は機関によって様々で、いただいたデータをそのまま使えることもあります。頭をひねりながらデータを切り貼りしたり、欠けている情報をウェブサイトから探し出したり、一筋縄ではいかないことも



しばしばです。デジタルアーカイブといえども、人手による作業も多いのです。

連携先が増えてくると、検索できる資料も豊富になってきます。図書館におなじみの論文や貴重書、電子書籍と、木簡、ざる、蓑、民族衣装、国宝の薬師如来像などが一緒に並んでいるのはちょっとシュールな光景ですが、デジタルアーカイブの扱う範囲がいかに多様であるかを示しているといえます。横断検索できるPORTAの重要性を再認識する瞬間でもあります。調べ物のときにPORTAを検索してみると、思いがけない発見があるかもしれません。

PORTAは、平成24年1月に新システム「国立国会図書館サーチ」へ移行する予定です。PORTAの名前がなくなるのはちょっと寂しいですが、今後もデジタルアーカイブの入り口がもっと便利になればいいと思います。

(電子図書館課 yaskohi)

言葉のエッセイ

第6回 母音・イントネーション・アクセント

筆者が勉強した約20か国の言語からの経験則であるが、母音は、北に行くほど数が多いような気がする。南欧の国、スペイン、イタリア、ギリシャは、おおよそアイウエオであるといつてよい。それが北に行くと、母音の上に点々がついていたり、丸がついていたり、あるいは英語みたいに同じ文字なのに発音が種々あるという現象が起こることになる。

朝鮮半島は日本より北なので、母音の数は日本語より多い。第3回で、母音調和の話が出たが、韓国・朝鮮語にも母音調和の規則がある。聞くところによると、母音調和は、ウラル語族、アルタイ語族によく見られる傾向であるらしい。フィンランド語、ハンガリー語は前者の系統に属し、韓国・朝鮮語は後者に属するので、母音調和の規則がある。とはいっても、日本語もアルタイ語族に属するが、母音調和の規則はない。

詳しくは述べないが、母音調和とは、動詞を活用させる場合、あるいは名詞に接尾辞をつける場合などに際して、語幹と同じ系統の母音を用いるということである。韓国・朝鮮語の場合は、陽母音と陰母音、ハンガリー語の場合は、高母音と低母音、フィンランド語の場合は前母音と後母音という区別を設けている。

ここで話を変えて、イントネーションとアクセントについて述べよう。疑問文を尻上がりにするというのは、大方の言語で一致している。しかし、例外もある。フィンランド語の場合、Yes、Noで答えられる疑問文も尻下がりであ

る。どうやって疑問文と平叙文とを区別するのかというと、動詞に疑問を表す接尾辞「-ko」または「-kö」をつけて区別する。「-ko」と「-kö」のどちらをつけるかは、母音調和の規則によって決まる。ハンガリー語では、疑問文は、後ろから2音節目までは尻上がりで、最後に落とすという面白い規則がある。

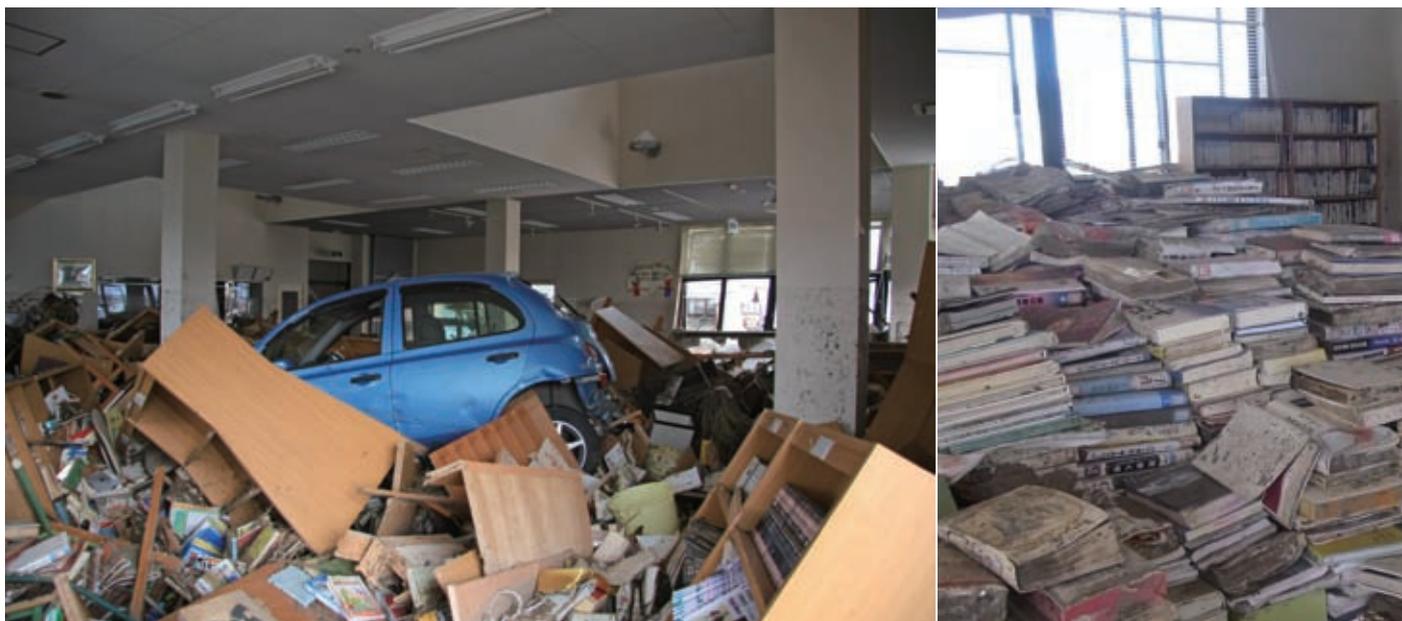
単語のどこにアクセントがあるのかは、言語によっていろいろな規則があつて面白い。ハンガリー語とフィンランド語は、遠い親戚関係にある言語なので、ともに単語の第1音節にアクセントがある。ポーランド語は、必ず後ろから2番目にアクセントがある。イタリア語もそうであると思われがちであるが、そうでもない。後ろから3番目にアクセントが来る場合もかなりある。

現代ギリシャ語は、後ろから4番目の音節にアクセントが来ることを嫌うという珍しい規則がある。例えば、後ろから3番目にアクセントのある語の後ろに所有代名詞などがつくと、それを一つながりと考えるので、後ろから4番目にアクセントが来てしまうことになる。その場合、アクセントの位置をずらすということが行われる。

日本語の場合、アクセントの違いが単語の違いになることが比較的多い。例えば、「雨」と「鮎」。それだけ同音異義語が多いということである。「あ」で始まる2音節の単語を思いっただけ書いてみると「秋」と「空き」、「悪」と「灰汁」、「朝」と「麻」、「葦」と「足」、「鯨」と「味」、「粟」と「泡」。(ゴガク・マニアシュヴィリ)



図書館・文書館における資料防災



平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。被災地の図書館、文書館、博物館・美術館等にも甚大な被害がありました。

災害はさまざまな形で私たちの生活に影響を及ぼしています。図書館においても、近年、甚大な被害を及ぼす災害が国内外で多発しており、所蔵する資料を守るため、防災に対する関心が高まっています。災害は、資料保存にとって最大の脅威ともいえます。長い時間をかけて保存してきた資料が、災害によって一瞬にして失われてしまうこともあるためです。

ここでは、平成22年11月5日に東京本館で開催した第21回保存フォーラムの内容から、図書館・

文書館における資料防災についてご紹介します。なお、「資料防災」とは、災害による被害の予防から復旧までの、総合的な対策を指しています。

1 図書館・文書館における防災

小川雄二郎氏（BOSAI International代表）からは、防災計画の必要性についてお話いただきました。

世界地図上で、地震や風水害など自然災害の被災地にマーキングをすると、日本の上には無数の印がつきます。それにもかかわらず、被災した機関の関係者に聞き取りを行うと、「このようなことが起こるとは想像もしなかった」という意見がとても多いそうです。実際に被災するまで、災害



岩手県野田村立図書館 左は震災直後の様子（提供：野田村）中央・右は平成23年5月10日現在の状況

は自分のところには起こらないと考えがちですが、日本の図書館・文書館にいる限り災害は必ず起こるものと認識するようにしましょう。

図書館・文書館が災害から守るべきものは、利用者・職員の生命、所蔵資料の価値、図書館・文書館としての機能です。各図書館・文書館で消防計画が作成されているため防災計画は必要ないのでは、という意見もありますが、消防計画は人命救助を目的としたものなので、所蔵資料については触れておらず、守るべき対象になっていません。したがって、図書館・文書館においては、消防計画が必ずしも資料防災計画とイコールではないといえます。

災害対策を考えるときに、人命救助が最も優先

されるのは正しいことです。さらに、図書館・文書館といった資料保存機関においては、所蔵資料の価値や施設としての機能をできる限り失わないことも重要となります。

設備面での防災対策としては、資料が棚から落ちないように書棚に扉や枠をつける、書棚が倒れないように床や天井から補強するなどが考えられますが、これらは嚴重にすればするほど日常的な利用の際に不便になるという傾向があります。設備面で十分な防災対策をしたけれども、利用しにくくなったため利用者数が減少した、ということでは、利用を前提とした図書館・文書館にとっては本末転倒です。適度な便利さを確保した上での対策が必要となります。



小川雄二郎氏（BOSAI International代表）

十分な対策がとられていなければ、自然災害による被害の大きさは拡大します。地震や台風、津波などの自然災害を避けることはできませんが、各機関における災害対策を強化して自然災害の被害を小さくすることは可能です。

災害への対応には3つの段階があります。①災害が発生したときの緊急対応、②元の状態に戻すための復旧対応、③次の災害に備えるための予防です。緊急対応と復旧対応は重なることもあり、復旧対応の後半は予防となるため、この3段階は一連のサイクルと考えることができます。ただし、これらのサイクルを循環させるためには注意が必要で、一つでも対応に失敗すると、人命にかかわる事態が起きたり、資料が滅失・焼失したり、廃館・閉館といった取り返しのつかない事態を招く

こともあります。

災害発生時の緊急対応では、まず何が起きたかを把握することが重要です。目の届きにくいところまできちんと目配りするためには、日常的な対策が必要になります。被災する危険性が高いのにあまり人目につかないようなエリアがあるならば、定期的に見回ってチェックするなどの体制づくりをするとよいでしょう。

被害の進行を止めるために必要となる人や組織、物資、資金、協力体制は、災害時にすぐに入ることではありません。どのような災害が発生するかを想定し、そのときに必要となるものを調達し、どう行動するかというシミュレーションをする、このような緊急対応のための事前の準備も災害の予防に含まれます。

災害時の被害を想定するためには、その施設にはどのような災害が起こりやすいか、所蔵資料がどのような災害に弱いのかを把握しておく必要があります。大量の所蔵資料のすべてについて、同様に最善の対策をすることはできないので、守るべき資料の優先順位を定めます。例えば、紙資料は地震の揺れには比較的強いですが、火災や水害によって大きなダメージを受けます。紙資料の優先順位が高ければ、火災・水害対策に力を入れましょう。

具体的な災害対策を実施するにあたって、すべての機関に有効な方法は、自分たちの置かれてい

る状況をよく理解することです。被災経験、防災計画の有無と有用性、施設の中で防災上弱いところはどこか、周辺地域に被害を大きくするような要因はないか。このような問題をよく確認して、防災のためのカルテを独自に作成することが、より適切な災害対策につながります。

2 被災資料の救済

青木睦氏（国文学研究資料館准教授）からは、被災した資料の救済についてお話していただきました。

図書館・文書館を災害から守るということは、自分たちの施設と所蔵資料を守るという以外に、地域での保存活動も含みます。近隣の機関が被災したときに協力する、逆に自分たちの機関に何か起きた時には近くの人たちが助けてくれるという体制を、日頃から地域で構築しておきましょう。

日常的に防災にかかわるのは施設管理の担当者だけ、という機関は多くあります。これは、防災対策を予防的保存措置から切り離して考えているためです。

例えば、資料の劣化・損傷を防ぐための予防的保存措置として、資料を保存箱（収納容器）に入れたとします。保存箱には、光やホコリを資料に接触しないようにしたり、資料の形状を維持したりする機能があるほか、地震の際には落下によるダメージを軽減することもできます。このように、



青木睦氏（国文学研究資料館准教授）

予防的保存対策は防災対策につながっており、日常的に十分な予防的保存対策をしていれば、災害時に過大なダメージを受けることはありません。

図書館・文書館で小規模災害が起きたときには、写真に撮るなどして記録します。このときの記録は、被災体験をした職員の記憶を補助するのはもちろん、次の世代の職員に被災体験を引き継ぐ際の貴重な資料になります。また、収蔵庫内は定期的に巡回点検を行っておくと、被災時にどのような変化が起きたか知ることができます。

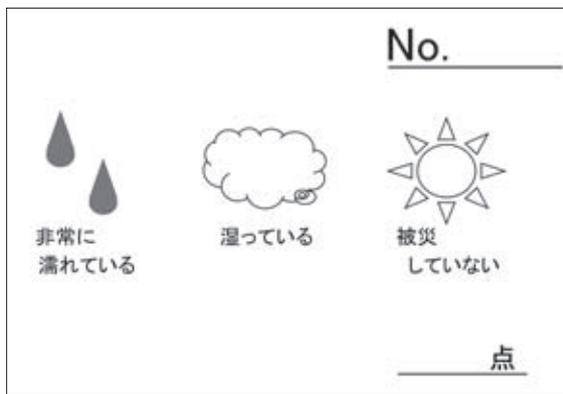
災害時の図書館・文書館では、被災後しばらくは資料に手をつけられない期間があることを前提として、その間も被害を進行させないような対策をとることが重要です。

水濡れ被災資料の応急処置には、その状態に応

じて4種類の方法があります。自然乾燥、扇風機による空気乾燥、専門家による1点ごとの修復処置、真空凍結乾燥という冷凍処置です。応急処置の方法は、資料の状態によって決定します。水分をたっぷり含んで濡れている資料に対しては真空凍結乾燥、湿っている程度の資料には自然乾燥がより有効となります。

大量の被災資料に対しては救急救命活動におけるトリアージの考え方を適応します。トリアージとは、災害時・非常時に短時間で多くの人に最善の治療を行うために、患者の容体の緊急度や重症度によって治療や後方搬送の優先順位を決めることです。水害の被災資料の場合は人命救助とは異なり、状態のよいものを先に救出します。

例えば大量の水濡れ被災資料があるときには、①状態が良好なもの、②一部が水濡れしたもの、③全体に水濡れしたものの3つに分けます。まず、①を被災現場から遠ざけて、被害の拡大を防ぎま



水濡れ被災資料用のトリアージ・タッグ
(国立国会図書館が2006年の救済実習時に作成したもの)

す。それから、②のうち状態の良いものから順に救出します。被害が小さいものは乾燥などの処置にも手間がかからず、利用可能な状態に戻る可能性も高いためです。③については、他の資料の救出が終わった段階で、処置が有効と思われるものがあれば真空凍結乾燥などを行います。

3 国立国会図書館における資料防災

国立国会図書館からは、資料防災に関する取組みについて報告しました。

これまでも防災に関するフォーラムを開催するなど、防災意識の喚起に努めてきましたが、平成22年2月に「国立国会図書館資料防災指針」¹を策定し、それに基づいて、現在、資料防災マニュアルなどを作成中です。

平成18年に、水災害を想定して、水濡れ資料の救済実習を行いました。実習のため、約270点の不用資料に水をかけて水濡れ資料を準備しましたが、水が資料に浸透するのに非常に時間がかかったため、全体に水濡れした資料を作ることはできませんでした。被災現場で見られるような重度の水濡れ資料は予想以上に長い時間水に浸っているということがわかり、小規模災害における早期発見の必要性を改めて認識しました。

この実習では、水濡れ資料の搬出から乾燥までの一連の作業を行ったことで、被災時の作業の流れや注意点を確認することができました。作業上の



東京本館 本館書庫最上階の被災直後の様子

細かな注意点にこだわるよりも、救済作業を迅速に行うことが重要だということもわかりました。

小規模水災害の対応については、国立国会図書館ホームページに「小規模水災害マニュアル」を掲載しておりますので、ご覧ください²。

東日本大震災により、国立国会図書館では、東京本館の書庫で約180万冊の図書が棚から落下しました。このため、一部の資料の閲覧・複写サービスを停止して復旧作業を行いました。幸いなことに、ひどく破損した資料はほとんどありませんでした。

今回の地震で、本当に「日本の図書館・文書館に限り災害は必ず起こる」ということをあらためて実感した次第です。今回の経験を生かして、これからも、大切な文化的遺産を守るため、資料防災に地道に取り組んでいきます。

(収集書誌部資料保存課)

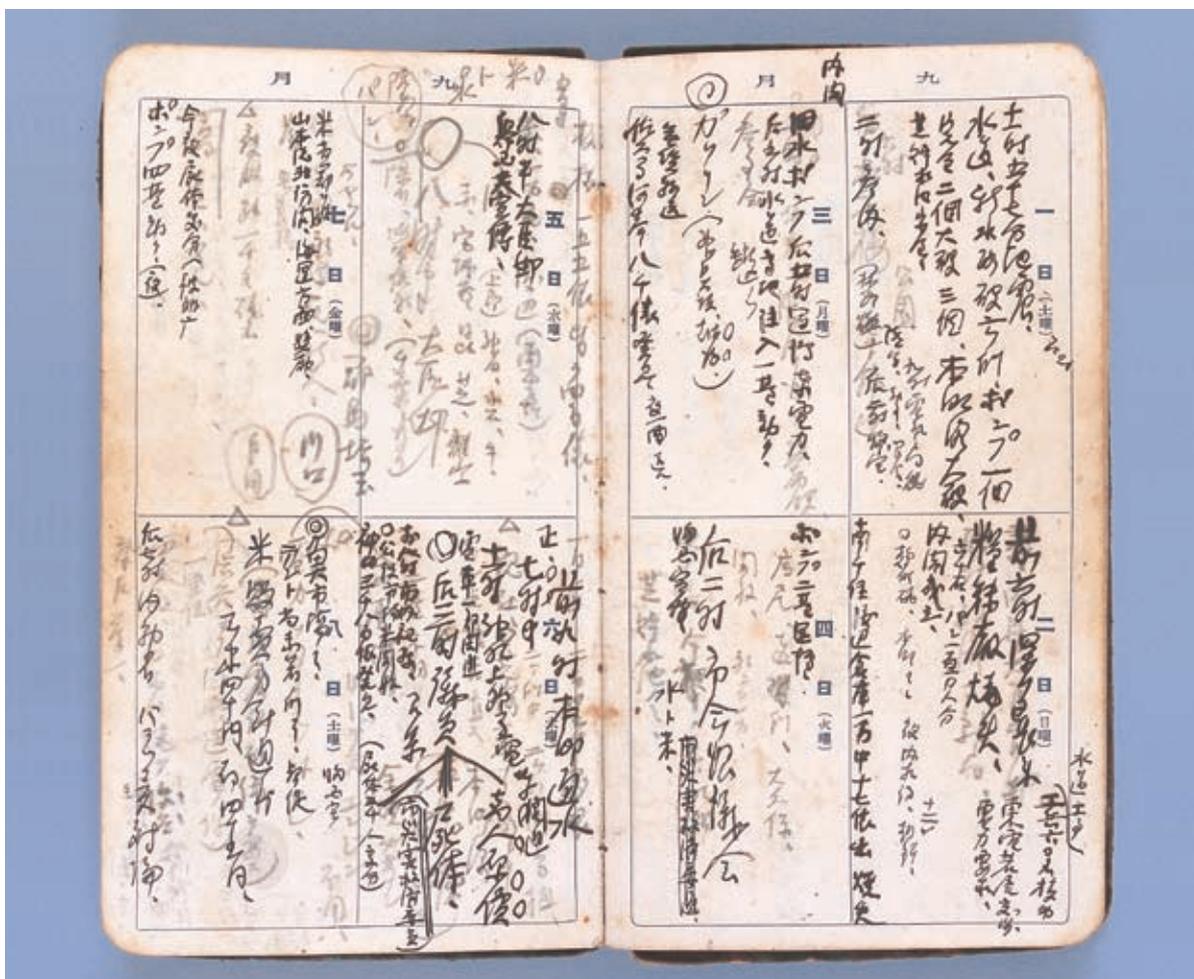
1 国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>資料の保存>NDLにおける保存活動>国立国会図書館資料防災指針 (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/iflapac/pdf/bousaishishin.pdf>)

2 国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>資料の保存>パンフレット、マニュアル、研修テキスト等>少量の水濡れ手当て>小規模水災害マニュアル (http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/flood_manual.pdf)

憲政資料室の新規公開資料から

永田秀次郎・亮一関係文書、若槻礼次郎関係文書

国立国会図書館は、幕末・維新时期から現代に至る政治家、官僚、軍人らの所有していた個人文書（憲政資料）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規公開した「永田秀次郎・亮一関係文書」「若槻礼次郎関係文書」をご紹介します。



手帳 大正12年（永田秀次郎・亮一関係文書 1430）

永田秀次郎・亮一関係文書

永田秀次郎・亮一関係文書3,549点は、平成22年9月にご遺族から寄贈を受けたものです。

大正12（1923）年9月1日、関東大震災の際、永田秀次郎は後藤新平の後を継ぎ東京市長に就任

していました。永田は震災の当時のことを1年後に、「九月一日の思ひ出」というエッセイ¹で書いており、「今私の心に浮んだ事を日記帳を見て書いて見よう」と記しています。寄贈を受けた文書の中に、この日記帳もしくは日記のもとになった

と思われる手帳があります（前頁写真）。9月1日以降1週間の記述をいくつか抜き出してみましょう。

9月1日

十一時五十七分地震／水道 新水路破六所 ポンプ
一個 完全二個 大破三個 本郷源大破／芝貯水池
安全／二時参内／九時電気局焼

9月2日

前六時深川区長来 糧秣廠焼失 六千石 パン
一百万人分／水道工事 工兵六〇名援助／東電若尾交
渉／電力要求／内閣成立／〇麹町焼 本郷？ 夜内相
訪 朝鮮／南千住渡辺倉庫 一万中十七俵出 焼失

9月3日

佃水ポンプ 后五時運転／◎ガソリン（神戸 大阪
越後）

9月4日

ポンプ二基動く／后二時市会協議会／水と米

9月5日

八時半大臣邸／婦国大宣伝／板橋一五五俵、皆て
四百俵

9月6日

前九時本郷通水／前八時 市内視察／十一時 神明
上野間電車開通

9月7日

米売却を始／山本総理訪問 海軍方面 奨励

永田の把握した情報や関心がうかがえます。水道の保全について記載が目立っていますが、その理由は、前述の「九月一日の思ひ出」によれば、震災の2年前、東京市の助役時代の1910年12月に、地震で水道が止まったという経験があったからでした。食料の確保についても、深川

永田 秀次郎（1876-1943）

兵庫生まれ。明治32（1899）年7月第三高等学校法学部卒。同年12月判検事登用試験、弁護士試験及第、司法官試補・検事代理、翌年文官高等試験合格、明治45（1912）年内務書記官、内務省警保局警務課長、その後、京都府警察部長、三重県知事を経て、大正5（1916）年内務省警保局長、大正7年貴族院議員、大正8年に後藤新平東京市長により東京市助役、大正12年5月東京市長となるも翌年9月辞職、その後、昭和5（1930）年にふたたび東京市長、昭和12年広田内閣拓務大臣、昭和14年阿部内閣鉄道大臣。号は青嵐。
写真：永田秀次郎・亮一関係文書 1985-1



^{りょうまつしょう}
の糧秣廠が焼けたのを聞いたときには、「愕然として色を失った」と記しています。この手帳の末尾近くにも「バラック」や「焼失面積」、船名と米の石数のメモなどが記されています。

その後、震災に対応するため、9月27日に帝都復興院官制が發布され後藤新平帝都復興院総裁（兼内相）のもとで復興計画が作成され始めると、永田秀次郎は「関係各庁高等官又ハ学識経験アル者」（帝都復興院官制第11条）として帝都復興院の参与に任命されます。第1回の会合は11月1日に開かれ、その書類が「帝都

1 『震災記念十一時五十八分』（万朝報社出版部 1924）、後にルビをつけて『青嵐隨筆』（敬文館書店 1924）に収録されている。「近代デジタルライブラリー」で閲覧可能（『青嵐隨筆』は館外からも閲覧可能 <http://kindai.ndl.go.jp/infondljp/pid/1021480>）。



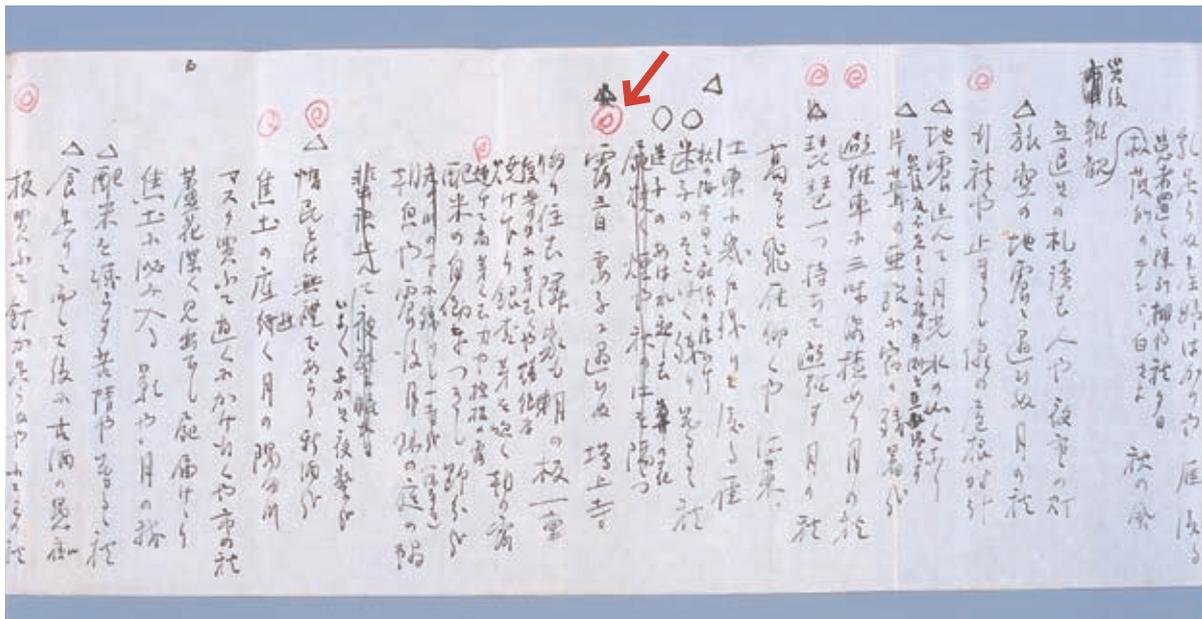
帝都復興院諸案（永田秀次郎・亮一関係文書 1480）

復興院諸案」と記されて綴られています（上写真）。この「諸案」の内容は、復興院からの提出議案として「第一 主要街路ノ施設及其規格ニ関スル件」「第二 各種営造物ノ配置ニ関スル件」「第三 建築ニ関スル件」「第四 復興計画ノ統制及復興事業ノ執行ニ関スル件」「第五 復興事業費ノ負担区分ニ関スル件」「第六 復興事業費ノ財政計画ニ関スル件」のほか、「後藤新平総裁挨拶」「復興事業費分担概説表」などです。復興院から提出された6件の議案は3つの小委員会に分かれて検討されることになり、永田は第四から第六の議案を検討する第二委員会に入っています。この綴の第五議案には鉛筆による訂正や朱筆の書き込みが見受けられます。この

後、帝都復興院は参与会の意見を斟酌して、評議会に復興計画を提出しています。

また、俳人でもある永田は、「震災雑詠」と題して、震災から復興時にかけての状況、心境を詠んだ句を残しています（次頁上写真）。「露三日 妻子に遇ひぬ 増上寺」など、句の上に赤く印がつけられたもの（写真矢印）は、のちに説明を添えて『ホトトギス』第27巻第5号（1924年2月）に発表されました²。

このほか、永田秀次郎宛の手紙が1,200通以上残されています。秀次郎は俳人の高浜虚子と第三高等学校で句会に参加しており、虚子の手紙が秀次郎宛18通、永田亮一宛4通あります。また、昭和7（1932）年5月に来日した際に会った俳優



震災雑詠 部分 (永田秀次郎・亮一関係文書 1092)

チャップリン³からのニューイヤーカード (1934年12月) も含まれています。ほかには、秀次郎の著書『浪人となりて』(耕文堂 大正7年)、『我思ふ所』(博文館 大正8年)への礼状が多くを占めています。秀次郎はラジオ放送や講演会で演説を行うことも多く、それらの原稿も残されています。

一方、秀次郎の長男である永田亮一は、昭和27年以降、衆議院議員(外務政務次官・衆議院外務委員長、ロッキード問題に関する調査特別委員長などを歴任)、それ以前には、兵庫県立三原郡倭文村長、兵庫県洲本公共職業補導所長・洲本家事審判所参与員、兵庫県教育委員などを務めていました。当時の兵庫県行政関係の書類が、教育委員会のものを中心に比較的多く残されています。そ

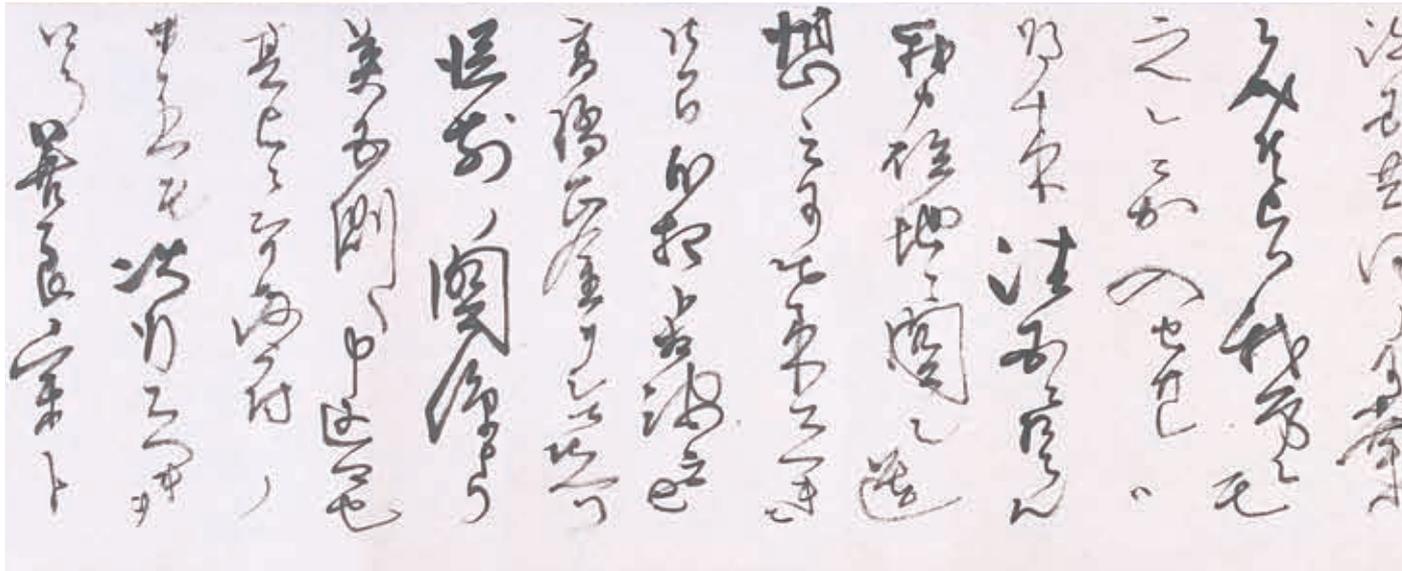
永田 亮一 (1911-1997)



写真：永田亮一後援会趣意書
(永田秀次郎・亮一関係文書 1829-1)

の後の自由党入党後のものは、選挙関係の資料が中心です。そのほかに講演の原稿類、兵庫県出身代議士で後に衆議院議長を務めた原健三郎からの昭和20年代の手紙17通などが散見されます。

2 前掲『青嵐隨筆』に収録されている。
3 Chaplin, Charles (1889-1977)



桂太郎書簡 若槻礼次郎宛 部分（若槻礼次郎関係文書 1-2）

若槻礼次郎関係文書

若槻礼次郎関係文書19点は、平成22年5月にご遺族から寄贈を受けました。桂太郎や加藤高明からの手紙37通を巻物に仕立てたものが6巻あり、各巻頭に若槻礼次郎自作の漢詩が掲げられています。

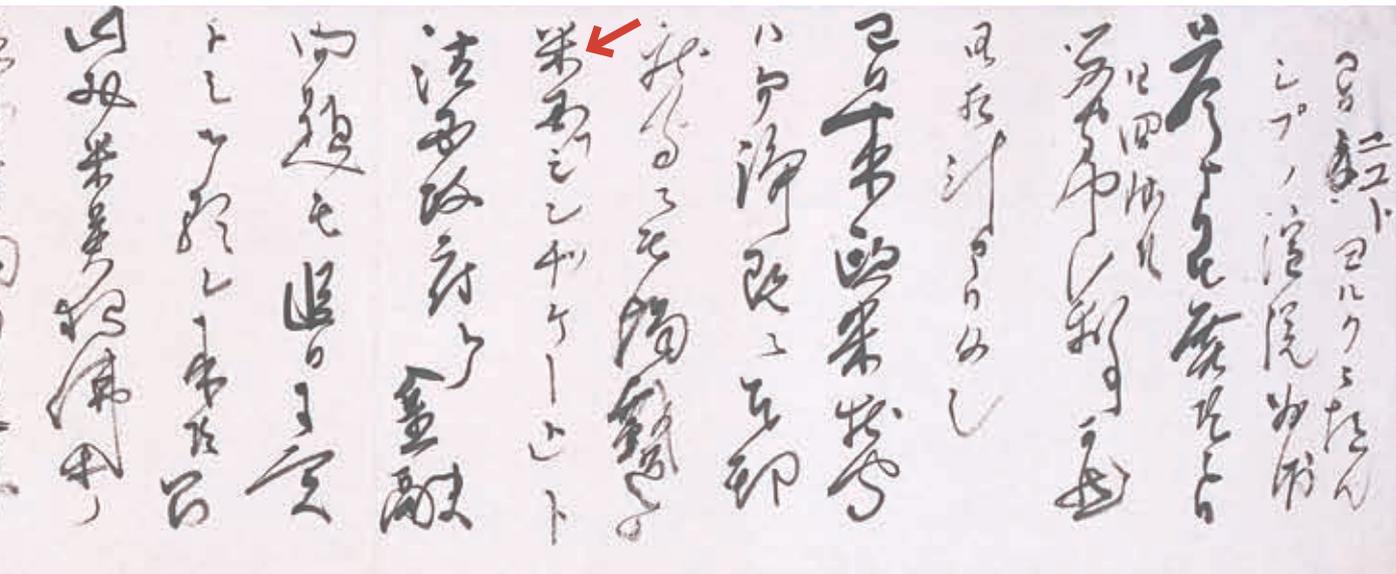
若槻 礼次郎（1866-1949）

島根生まれ。父は松江藩士。明治25（1892）年帝国大学法科大学を卒業し、大蔵省に出仕。主税局長、大蔵事務次官を歴任し、明治44（1911）年貴族院議員。第3次桂内閣、第2次大隈内閣では蔵相を務める。大正13年（1924）加藤高明内閣の内相に就任し、普通選挙法の成立に尽力。大正15（1926）年に首相となる。その後、ロンドン海軍軍縮会議首席全権を経て昭和6（1931）年再び首相に就任。号は克堂。
写真：電子展示会「近代日本人の肖像」
(<http://www.ndl.go.jp/portrait/>)



特に桂太郎からの明治42（1909）年から45年にかけての9通の手紙は、「桂花餘薫」と題されて2巻にまとめられています。明治42年から44年は、桂太郎が首相兼蔵相（第2次桂内閣）の地位にあり、若槻は大蔵次官に奉職している時期にあたり、手紙では南満洲鉄道株式会社社債の件、財政整理の件などに言及があります。

例えば、明治43年11月13日付けの桂太郎の手紙では、「米国「シンヂケート」と清国政府との金融問題も追日事実として顕れ…米英独仏等の諸国共同の事業相成候上は、我方にも之れに加入せされは将来清国に於ける我か位地に関し遺憾之事出来すへき」（上写真矢印）と、米英独仏による清国への借款団（四国借款団）が形成されたのであれば日本もこれに参加しなければならないだろうと



し、後段では、外相と相談の上、高橋是清（日本銀行副総裁兼横浜正金銀行頭取）に英国へ連絡をとらせたので、以後高橋と相談の上適切な処置をとるように伝えています。なお、この借款団による資本提供を背景にして清朝は翌年1911（宣統3、明治44）年に全鉄道幹線の国有化を行おうとしましたが、激しい反対運動が起こり、これが辛亥革命の端緒となっています。その後、1912年には日本とロシアが加わり六国借款団が成立しています。

手紙のほかには、明治41年から昭和22（1947）年にかけて折々の心情などをつづった漢詩文集が11冊あり、『忙中閒草』と名付けられています。そのほか小冊子が2点あります。なお、若槻宛の桂太郎の手紙は、若槻礼次郎『明治・大正・昭和政界秘史 古風庵回顧録』（講談社学術文庫

1983）〈請求記号 GB411-133〉の解説、千葉功編『桂太郎発書翰集』（東京大学出版会 2011）〈請求記号 GB631-J73〉に翻刻が収録されています。

（主題情報部政治史料課）

憲政資料室のご案内（東京本館 本館4階）

幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。



本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

縫針読本

荻山信行著・刊
〒737-2603 呉市川尻町西2-7-18
2010.6 154頁 21cm <請求記号 DL396-J23>

本書は、よりよい縫針を生産するために先達が重ねてきた苦労や工夫を、紀元前1万年頃までさかのぼる縫針の歴史とともにまとめている。

ページをめくると、まず江戸時代の針生産の様子を表す図画が目に入る。しめ縄が張られた作業場に、紋付姿に烏帽子を身に付けた針士が一人、針作りにいそしんでいる。神聖でいくぶん儀式的な雰囲気を感じさせる。あわせて掲載されている中国やイギリスの針作りの様子と比較するとおもしろい。

縫針の歴史は古く、旧石器時代にはすでに動物の骨や角で作られた縫針が存在していた。日本でも縄文時代前期の縫針が出土している。当時の縫針にも針穴は確かに存在し、針全体の形も現在のものとはほとんど変わらない。大昔からここまで変化のない道具というのもあまりないのではなかろうか。

しかしながら、本書を読み進めるうちに、縫針の形状は変化していないものの、その製造工程は、古代からの製法を踏襲しつつも進化し続けていることがわかってくる。

縫針の製造工程は30近くのにほる。原材料となる金属を引き伸ばし、切断し、研磨して尖らせ、穴をあけ、縫針の炭素量を増やして強度を上げるため焼入れし、線香のようにもろい焼入れ後の縫針の弾力性を上げるために焼戻しして、また研磨……太さ1ミリにも満たない小さな製品にそれだけの手間がかけられ、日々その工程に改良が加えられている

ことに驚かされる。特に焼入れ・焼戻しの工程は、縫針の品質に大きく影響するところであり、各種の方法が試みられている。例えば、かつて焼入れ工程の中で行われていた、原料に炭素をしみこませて



炭素量を上げる作業（浸炭）では、味噌や硝石、米ぬかなどさまざまな物質とともに針を焼いていた記録がある。残念ながら、それらの物質を浸炭に使用していた理由は不明だが、著者はやすりの製造過程を記した書物を参照し、焼入れに味噌や硝石を用いていたと書かれていることから、職人の転職や情報交換によって鍛冶職人の焼入れ技術が縫針の現場に取り入れられたのだらうと推察している。著者はやすりづくりなど長年にわたり広島県の地場産業に携わっており、1993年には『やすり読本』（2001年に改訂）を著しているとのことだ。緻密な文献調査に加え、著者のこれまでの豊富な経験に裏付けられた考察といえる。

広島県は縫針生産の国内シェアを独占しているが、かつては京都や兵庫なども針の名産地として栄えていた。縫針の製造工程とあわせて、第一次世界大戦や朝鮮戦争勃発時の好況とその後の大量倒産といった縫針産業史も知ることができる。針にまつわることがら豊富な図表と参考文献とともにまんべんなく1冊にまとめられており、縫針や縫針の産地についてさらに調べるときにも手がかりとなる。

（総務部企画課 吉井 侖奈）

ジャンルコードと分類法

同人誌図書館における分類法の検討 C77版

myrmecoleon 著 Paradoxical Library 刊
myrmecoleon@gmail.com (著者メールアドレス)
2009.12 80頁 21 cm <請求記号 UL651-J2>

マンガ研究には通史、作家論、研究方法論など、さまざまなサブジャンルが想定されるが、いまだ「手さぐりで試行錯誤をくり返しているというのが現実」(夏目房之介、竹内オサム編著『マンガ学入門』ミネルヴァ書房 2009) だという。図書館におけるマンガの問題についても、日本ではまだ、マンガを図書館に入れるべきか否かで議論が続いているのではなかろうか。ましてや図書館におけるマンガの整理法については、検討はほとんどなされていない。

そんななか、マンガの分類について考察する本書が発行された。マンガといっても、一般に流通するマンガの分類ではなく、マンガ同人誌の分類だ(ただし、マンガ同人誌も表現形式は大抵マンガである)。

本書では主に、マンガ同人誌界で最も歴史のある即売会「コミックマーケット」で使用されてきた「ジャンルコード」が考察されている。ジャンルコードは本来、参加サークルを会場で配置するために使われてきた分類で、同人誌の分類表ではない。けれども、同人サークルとその頒布物の性格はほぼ連動するため、著者は、これを図書分類に見立てることで、将来、マンガ同人誌図書館が設立された場合のために予備的考察を展開している。

本書の特徴は、主たる主題はジャンルコードでありながら、ひろくマンガと図書館、マンガ同人誌と図書館についての記述も多く含まれる点だ。例えば第1章では、マンガ同人誌図書館につき、その類似

例などが広く取り上げられており、注などにおいて、先行して存在したマンガ喫茶や、米国の「ファンジン(マンガに限らない同人誌)」図書館などについて、さらに知る手がかりを与えてくれている。

第2章においては、オハイオ州立大学マンガ図書館(Billy Ireland Cartoon Library & Museum, Ohio State University)のマンガ・ジャンル件名などをはじめとして、各種のマンガ分類が紹介されている。

ジャンルコードそのものについては、第3章から第5章において、その成立を歴史的に追うことに多く記述が割かれている。これにより、独特に発展を遂げたマンガ同人誌界固有のジャンルが総覧できる。

ただ、評者としては、図書館情報学の理論をさらに展開してもよかったのではと思う。たとえば、ジャンルコードには分類記号以前に6つの1次区分(マンガ・男性向・アニメ・ゲーム・小説・その他)が存在するが、そのうち「男性向」は、図書分類でいう「偏向の相」(読者によるセグメント)にあたり、残り5つの区分肢とは位相が異なると考えると整理しやすいだろう。

付録として「コミックマーケット・同人誌図書館関係年表」(1975-2010)が付されており便利だ。これにより、コミックマーケット第1回目からの、参加者数、参加サークル数、陳列タイトル数などを一覧できる。

(主題情報部人文課 小林 昌樹)



■ 我が国の貴重な資料の
次世代への確実な継承
に関する協定

5月18日、国立国会図書館と文化庁は、我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承を目指し、歴史的・文化的価値が高いにもかかわらず、当館や美術館、博物館等においてこれまで体系的な保存が十分になされていなかった分野の作品や資料等について、その所在情報の把握や目録の作成、収集・保存、活用等について協定を締結し、一層緊密な連携・協力を行っていくこととした。

連携・協力分野における当館の具体的な取組みとしては、当面次の事項を想定している。

① テレビ・ラジオ番組の脚本・台本

保存方法の調査研究、デジタルアーカイブの構築による保存等を行う。

② 音楽関係資料（過去に我が国で出版された楽譜等）

文化庁が実施する音楽資料の所在データベースの作成に協力し、全国各地に散在する音楽資料を統一して検索するしくみを整備する。

③ マンガ、アニメーション、ゲーム等

書誌情報の提供、情報システムの連携等を行う。

連携・協力内容の充実については、今後も検討する。

お知らせ

■ 「歴史的音源」が 利用できるようになりました



5月31日、1900年初頭から1950年頃までに国内で製造された初期のレコード（SP盤等）をデジタル化した「歴史的音源」の提供を開始しました。これらは、歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）が劣化、散逸等による音源の喪失を防ぐことを目的としてデジタル化したもので、落語、長唄、楽曲、歌劇、清元、浪花節、歌謡曲、講演、ジャズなど多様な内容が含まれます。

現在ご利用いただける「歴史的音源」は、約2,500点です。著作権保護期間内の音源は、国立国会図書館の施設内のみで提供しています。インターネット上では、三代目三遊亭圓馬の落語『三人旅』（ビクター 1928）、箏曲家 宮城道雄作曲・演奏『春の海』（ビクター 1930）など、館内では、人間国宝八代目竹本綱大夫の義太夫節『義経千本桜（鮎屋の段）』（ビクター 1928 二代目豊竹つばめ太夫時代の録音）などご利用いただけます。

今後は、6月末に約1万8千点、その後順次追加していき、最終的には約5万点を提供する予定です。また、公立図書館で著作権保護期間内のものを含めすべての音源をご利用いただけるように、検討・準備を進めています。どうぞご利用ください。

○URL <http://dl.ndl.go.jp/#music>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 電子図書館 > 歴史的音源

■ 近代デジタルライブラリーが さらに充実しました



6月1日、「近代デジタルライブラリー」に、約4万7千冊（3万6千タイトル）の和図書を追加しました。今回追加したものは、昭和前期（第二次世界大戦前後まで）に刊行された社会科学分野の図書で、著作権の処理前のため、国立国会図書館の施設内のみでご覧いただけます。これにより、館内での提供総数は、約51万4千冊（約38万5千タイトル）となりました。

今後もさらなる充実を図り、6月末には、著作権保護期間が満了した図書約5万タイトルのインターネット公開も予定しています。どうぞご利用ください。

○URL <http://kindai.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)
> 電子図書館 > 近代デジタルライブラリー



お知らせ

■ 国立国会図書館 データベースフォーラム

7月20日、東京本館および関西館で「国立国会図書館データベースフォーラム」を開催します。このフォーラムは、当館の作成するデータベースやコンテンツの内容、最新情報、知っているとは便利な使い方を、デモンストレーションを交えながらご紹介する催しです。

関西館では、当日、フォーラムの開催前後に、希望者を対象とする館内見学会を実施します（事前申込が必要です）。

入場は無料です。図書館関係者はもとより、ご関心をお持ちのみなさまのご参加をお待ちしています。

■東京本館

- 日 時 7月20日（水）【休館日】 13:00～15:20
- 会 場 東京本館 新館講堂
- 定 員 300名（先着順。定員に達した時点で受付を終了します）
- お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 企画課 電話 03 (3506) 3309（直通）

■関西館

- 日 時 7月20日（水）【休館日】 13:00～17:00
*館内見学は12:20～、17:10～の2回（各30分程度）
申込み多数の場合は、ご希望にそえないことがあります。
- 会 場 関西館 大会議室
- 定 員 300名（先着順。定員に達した時点で受付を終了します）
- お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 総務課 電話 0774 (98) 1247（直通）

■お申込方法

ホームページ上の「データベースフォーラム参加申込みページ」からお申し込みください。

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/dbf2011.html>

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>イベント・展示会情報

お知らせ

■ 国際子ども図書館

夏休み催物

「科学あそび2011」



昨年の様子
「でんきのじっけん」をテーマに
カミナリカードをつくる

国際子ども図書館では、科学読物研究会の坂口美佳子さんを講師にお招きして、科学と科学の本に対する子どもたちの興味を引き出す「科学あそび」を開催します。

- 日 時 7月30日(土) 14:00～16:00
7月31日(日) 14:00～16:00
- 内 容 宇宙ってどんなところ? ～月の形がわかる早見盤をつくろう～
- 会 場 国際子ども図書館 3階ホール
- 講 師 坂口美佳子氏(科学読物研究会)
- 対 象 小・中学生
- 人 数 各回とも 40名程度
- 参 加 費 無料
- お申込方法

次のいずれかの方法で7月12日(火)までにお申し込みください(必着)。申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

[往復はがき]

参加者1名につき1通に、ご本人(子ども)の氏名(ふりがな)、学年、電話番号、希望日(両日とも参加可能な場合は優先順位をお書きください)をご記入のうえお送りください。返信用はがきには、返信先の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

[ホームページ]

ホームページの「参加申込みフォーム」からお申し込みください。
国際子ども図書館ホームページ(<http://www.kodomo.go.jp/>) > 展示会・イベント > イベント情報 > これからのイベント > 科学あそび2011

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 児童サービス係
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話 03(3827)2053(代表)

※「科学あそび」開催日に、14:00から「子どものためのおはなし会～科学の本を楽しもう」を行います(申込不要。おもな対象は4歳から小学1年生程度です)。通常の「子どものためのおはなし会」はお休みします。

お知らせ

■ 帝国議会会議録 検索システムが 使いやすくなりました



帝国議会全会期（明治23年11月～昭和22年3月）の本会議・委員会の速記録をデジタル画像で提供する帝国議会会議録検索システムに、5月10日、新しい機能が加わりました。

従来の検索機能に加えて、院、回次、会議名、日付（または号）をリストから選択してクリックするだけで必要な画像を表示する「選択閲覧」機能を追加しました。

また、すべての画像ファイルに固有のURLを付与し、特定の会議録をブックマークに入れたり、ページを指定して、リンクを張ることが可能になりました。どうぞご利用ください。

○URL <http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国会サービス関連情報
> 帝国議会会議録

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 724号 A4 56頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会
・ソーシャルメディアによる議員と市民とのコミュニケーション
・議会のウェブサイトのためのガイドライン（翻訳）（資料）
・東日本大震災と財政運営
・2009年ドイツ連邦議会選挙と政党システムの変容（短報）

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections
Sagaminokuni Zama Sochuji yuraiki
 Record of a famous temple associated with Tokugawa Ieyasu
- 04 Digital archives in a public library for discovering local history
- 13 Essay on languages (6) Vowels/intonation/accent
- 14 Disaster prevention for materials in libraries and archives
- 20 Materials newly available in the Modern Japanese Political History
 Materials Room
- 12 <Tidbits of information on NDL>
 PORTA : a portal to digital archives
- 26 <Books not commercially available>
 ○ *Nuibari dokuhon*
 ○ *Janru kodo to bunruiho : dojinshi toshokan ni okeru bunruiho no kento*
- 28 <NDL News>
 ○ Agreement to secure the reliable handing down of national valuable materials to the next generations
- 29 <Announcements>
 ○ Historical Recordings Collection now available
 ○ New volumes have been added to the Digital Library from the Meiji Era
 ○ NDL Database Forum in FY2011
 ○ Summer event of the International Library of Children's Literature in 2011
 ○ Database System for the Minutes of the Imperial Diet now more user-friendly
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成23年6月号 (No.603)

発行所 国立国会図書館
 編集者 山田敏之
 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

平成23年6月20日発行 定価525円
 (本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
 電話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き抜して転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「刊行物」 > 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



「明朝紫硯 卷上-中」から 蓮
大岡春卜編 渋川清右衛門 [ほか3名] 延享3 (1746) 年
2冊 27.0×18.0cm <請求記号 WB1-18>

国立国会図書館月報

平成23年6月20日発行 (毎月1回20日発行)
(6月号通巻603号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円 (本体 500 円)